

平成28年度県外学校訪問報告書

【訪問高校】 埼玉県立越ヶ谷高等学校
(内 田 臣 治 校長)
〒343-0024 埼玉県越谷市越ヶ谷 2788-1
TEL 048-965-3421 FAX 048-960-1184

【訪問期日】 平成29年1月27日(金)

【訪問者】 玉利 博文, 森村 靖彦, 伊東 和輝

【対応者】 新田 裕康 教諭(教務部主任)

郷司 雅子 教諭(英語科)

飯田 勇人 教諭(進路部主任)

高橋 靖 教諭(教務部) 豊岡 寛行 教諭(参観授業者)



<学校の沿革>

創立91周年を迎える, 全日制と定時制を併置した県立の単位制高校。(今回は全日制への訪問である。) 全日制の生徒数は1017名で, 国公立大学・難関私立大学への進学志望者がほとんど。一般入試のみの選抜を実施し, 今年度は1.88倍(県内第7位)の高倍率。1学年9クラスで定員360名程度。部活動が盛んで, 入部率は約93.0%。

<学校の特徴>

「進学重視型単位制」「65分授業」「協調学習」「個を大切にする進路指導」

『平成29年度学校案内』の「越ヶ谷高校91年の歩み」を参照。今年度から3学期制に変更。授業時数の確保や学期成績の提示回数を増やすことで, 生徒への今後の取組を促す狙いから。

<アクティブ・ラーニング(以下AL)の取組>

「知識構成型ジグソー法」による授業実践

「知識構成型ジグソー法」とは, 協調学習(学習の違いを生かしあって, 各自が自分なりの理解を深め, 学んだ成果の適用範囲をひろめてゆける学習の仕方)が起きやすい環境を教室につくりだす手法の1つ。

- ・「3」がキーナンバー。3人でグループ活動が最適。
- ・一斉授業は否定しない。単元の導入やまとめなど, 適宜導入することにより。
- ・65分授業で導入するのはやりやすい。90分授業にも導入しやすいのでは。
- ・アウトプットの作業を, 活動のあとに早めに入れておくこと。
- ・1回やれば生徒は慣れる。生徒には, 一斉授業より印象に残るとのこと。

<授業参観(AL型現代社会/1年生)>

- ① 「18歳は大人?子ども?」というテーマ。まずはじめに, 18歳は大人か子どもかを問う。隣りの人と話し合ってもよい。《写真ア》
- ② 次に3~4人の班をつくり, 各班ごとに「**法**・制度側目(以下, **法**)」, 「**心**理学的側面(以下, **心**)」, 「**社**会・文化的側面(以下, **社**)」の3つの側面に関する資料のうち1つを配り, テーマについて考えて話し合う。《写真イ》
- ③ ②で考えたことを班でまとめ, 同じ班で共通理解をはかる。~②③を「エキスパート活動」という~《写真ウ》
- ④ 再び3~4人の班を構成し直す。その際**法**・**心**・**社**が必ず1人ずつ入るようにする。③で話し合ったことを共有して, テーマについて話し合う。~④を「ジグソー活動」という~《写真エ》
- ⑤ 最終的に「18歳は大人か子どもか」を判断し, その根拠をまとめる。

<補足>

- 今回の授業参加では、約 40 名という人数ながら、生徒はスムーズに動いて学習活動を行っていた。入学当初からこのような姿ではなく、徐々にこのような学習活動に近い取組を授業などで導入していくことで、生徒は慣れていくとのこと。
- ジグソー活動では、グループ内で本人しか知らない情報を持って学習活動（話し合い活動）に参加するため、生徒は責任をもって主体的に取り組んでくれるとのこと。
- 授業評価については、次のような形で行っていくとのことであった。
 - ① 本時においては、最初と最後の結論の変容がどうであったかをみたかったとのこと。
 - ② 表現力を評価する場合は、一斉に評価するのではなく 5 人くらいを決めて評価していくとのこと。
 - ③ 基本事項の確認などは、考査や小テストなどを活用。



↑ 《写真ア》



↑ 《写真イ》



↑ 《写真ウ》



↑ 《写真エ》

<学力向上に向けた進路指導、特色ある学校行事や学校活性化に向けた取組>

1. 1日65分授業（1.3単位）×5時間の授業と部活動の活性化

1週間は34単位相当の授業を行うことができる。1年から2年次前半までは、センター試験の範囲を終わらせるという意図から1年次は授業科目をほぼ固定している。文理転など進路に柔軟に対応するために、3年次は教育課程の約半分が自由選択科目になっている。（6単位科目・3単位科目・2単位科目を開設し、選択する形。）「国公立大学・難関私立大学に対応したバランスの良い教育課程」。また授業時間が十分確保できるため、平日は16:00には部活動が開始でき、休日にも土曜授業などをすることなく部活動を行うことができる。したがって部活動が盛んとなり、生徒募集につなげられる。

2. 授業改善のため授業研究委員会

8名（各教科から選出）で組織され、授業研究週間や全生徒による授業評価の企画、実施を行う。初任者研修では東大と連携したAL研修は必須となっている。（1）授業研究週間は年3回、計5週間設けている。まずはサーバー上に授業公開掲示板を用意し、授業公開をお勧めする時間や見どころを入力してもらう。それを職員に配付し「年間で1人3回以上は授業研究を！」というスローガンで参加を呼びかける。また授業研究週間の趣旨の理解や参加促進の目的で「OPEN SESAMI」という職員向けの新聞を発行している。参観したら授業用ワークシートを記入し、授業者に渡す。（2）全生徒による授業評価については、生徒の自己評価や職員の評価などを入れた質問をマーク形式（今年度まで15項目あったが、平成29年度から共通5項目＋教科別5項目に変更）で回答し、集計したものを職員へ返答後、職員は授業評価フィードバックコメントを生徒へ返し、保護者や地域の方々にもホームページなどを通して公開している。

3. 補習と講習

いずれも参加は希望制。「補習」は基礎学力の定着を目的としており、気になる生徒には声をかけて参加を推奨している。実施は早朝又は放課後。「講習」は進学指導の強化を目的。補習も講習も少人数から開講され、講座数はかなり多い。実施は主に長期休業中で、夏期講習においては40講座以上を開講し、のべ1500名以上が受講。

<参考>

- ・神奈川県では、これからの時代を主体的に生きるために必要な資質・能力の育成を目指し、「未来を拓く『学び』プロジェクト」を行っている。具体的には「知識構成型ジグソー法」による協調学習の授業づくりを中心とするアクティブラーニングに関する研究が主であり、初任者はこれらの研修を行っているとのこと。
- ・1, 2年次のGW前後で、二者面談を行い、次年度の選択科目を検討し、6月の後半には進路希望を仮確定し選択科目を決定する。また、早期の進路活動ということで、夏休み課題として「オープンキャンパスに参加してのレポート」を課し、9月の報告会で発表する。この過程で進路希望に変化が出ることを想定し進路変更期間を10月まで設けている。
- ・基本的に追認定を利用して、必ず単位を修得させる方針。
- ・家庭学習の定着を目的とした取組として、「スコラ手帳」を生徒に配布して活用している。1日及び1週間のスケジュールを管理する手帳で、生徒は生活の記録を含めて記入し、1週間ごとに担任へ提出。担任はコメントを記入し生徒へ返す。また、学習時間は（業者に依頼して）集計して公開し、生徒の学習意欲喚起につなげている。

<所見>

先生方が授業研究委員会に積極的に参加し、相互授業参観を通して授業を改善しようとする雰囲気が大変勉強になった。生徒の挨拶がとても気持ちよく、1クラス41名在籍するクラスの授業参観でも生徒が自ら考えて発言したり行動したりする姿を見て、大変刺激を受けた。本校とは、制服制度の有無や入試方式、定時制と被らない校時や固定の強い時間割など異なる点は多く、現状としてそのまま参考にするのは難しい。しかし、先進校の取組で参考になる点を今後導入できれば、とても楽しみであると感じた。